

# ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

coop

91

2019. 10. 31

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の兵庫県内の協同組合組織相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して一協同が息づくまちづくり」を基本理念として、共通行動目標の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ ..... 1
2. 第97回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開く ..... 2
3. 第97回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会 兵庫JCC宣言 ..... 3
4. 記念講演「私たちの選択が未来を変える  
～エシカル消費のすすめ～」..... 4
5. 2019 年度「虹の仲間づくりカレッジ」がスタート ..... 5

Contents

5. 今協同組合では一各協同組合からの報告一  
生協/JA（農協） ..... 6  
JF（漁協）/JForest（森林組合） ..... 7
6. 協同組合運動に生きる  
協同組合の一員として  
兵庫県農業協同組合中央会 総務企画部 主任 丸山 直幸 ..... 8

## ● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

### ピースアクション2019【第1弾】～『舞鶴引揚記念館』を訪ねて～



#### 生協

8月21日(水)、ピースアクション2019【第1弾】を開催し、39名が参加しました。第1弾は「舞鶴引揚記念館」と「赤れんが博物館」を訪ね、引き揚げの歴史について学んだり、原爆ドームのれんがなどを見学したりと、平和の尊さについて学びました。

### 8月31日は「やさいの日」



#### JA（農協）

やさいの日である8月31日に合わせて国産野菜をPRするイベントが全国各地で開催されました。兵庫県では、JA兵庫西が姫路市の商業施設で農産物マルシェや野菜の魅力を伝える講演会を行いました。

### マリンスクール開催



#### JF（漁協）

本年度のマリンスクールは7月下旬～8月上旬にかけて開催され、参加した約180名の参加者は、魚のつかみ取りや稚魚放流、干しダコづくりなどの活動をとおりて漁業や県内産水産物について学びました。

### 令和元年度通常総会を開催



#### JForest（森林組合）

8月29日(木)に兵庫県土地改良会館において兵庫県森林組合連合会令和元年度通常総会を開催しました。

#### ●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）  
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives  
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

#### ●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会	TEL(078) 391-8634
兵庫県農業協同組合中央会	TEL(078) 333-5870
兵庫県漁業協同組合連合会	TEL(078) 940-8013
兵庫県森林組合連合会	TEL(078) 381-5425

# 第97回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開く

国際協同組合デーは、毎年7月の第1土曜日に、世界の協同組合員が心をつなげて協同組合運動の発展を祝い、平和とより良い生活を築くために運動の前進を誓い合う日です。

兵庫 JCC は7月5日、兵庫県民会館けんみんホールで「協同の力で未来を拓く」をテーマに、第97回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催しました。

県内の生協、JA（農協）、JF（漁協）、森林組合の組合員や役職員など334人が参加しました。

第1部の記念式典では、主催者を代表して兵庫県農業協同組合中央会の石田正代表理事会長が挨拶し、兵庫県の寺尾農政環境部長、神戸市経済観光局の安原農政担当局長、日本協同組合連携機構の青竹常務理事から祝辞をいただきました。また、生活協同組合

コープ自然派兵庫の正橋理事長が兵庫 JCC 宣言を朗読し、満場一致で採択されました。

第2部では、TBS系「世界ふしぎ発見！」のミステリーハンターとして世界各地を旅した経験を持ち、現在ではエシカル消費の普及活動に取り組んでいる末吉里花氏より、「私たちの選択が未来を変える ～エシカル消費のすすめ～」と題して、記念講演を行いました。エシカル消費について、求められる背景や最近の取り組みを楽しく分かりやすくお話しいただきました。

また、兵庫 JCC 各団体が行うエシカル消費に関する取り組みを紹介する展示コーナーを設けて、パネル等の展示を行いました。

※兵庫 JCC 宣言は3ページ、記念講演は4ページを参照



主催者挨拶をする兵庫県農業協同組合中央会の石田代表理事会長



兵庫 JCC 宣言を読み上げる  
生活協同組合コープ自然派兵庫の正橋理事長



エシカル消費に関する展示コーナー

## 第97回国際協同組合デー・兵庫県記念大会

**第97回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会 兵庫JCC宣言**

本日、兵庫県内の生協、農協、漁協、森林組合の協同組合関係者が一堂に会し、心一つに協同組合運動のさらなる発展を誓い合う日を迎えました。

1895年に誕生した国際協同組合同盟は、96年前の1923年、「協同組合運動を全世界で発展させ、その協同組合の理念と価値を広げ、より良い社会を築くことを目指して行こう」と提唱し、毎年7月の第1土曜日を国際協同組合デーと決めました。

あれからおよそ1世紀を経、今や世界107カ国から、生協・農協・漁協・森林組合など、あらゆる分野の308もの協同組合組織が加盟し、組合員総数約12億人（2018年4月現在）を超えるまでに発展しています。

さて、今年5月から新元号「令和」が施行され、日本は新たな時代に踏み出しました。「平成」の時代を振り返ると、戦後最長と言われた景気回復は、私たちの暮らしに実感を伴うことは少なく、デフレ社会が長く続きました。国際情勢の緊張と不安定度も高まりました。また地震や台風等、数多くの自然災害にみまわれる等、元号が希望した「平らかに成る」とは言い難い時代でした。一方で、「支え合い」や「助け合い」、「絆」の力と重要性を多くの人々が実感しました。

私たち協同組合にとっての平成は、国連が定めた「国際協同組合年」やユネスコ無形文化遺産への登録、国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に推進役として明記される等、その活躍への期待と存在が大いに高まった時代でもありました。

新たな時代を迎えたとはいえ、日本が直面するのは、少子・超高齢社会の加速がもたらす誰も経験したことのない社会です。それに伴う社会的孤立や格差、貧困の連鎖といった様々な不安は高まるばかりです。

だからこそ、「助け合いの組織」としての協同組合の役割、真価を発揮していかなければなりません。もちろん、協同組合だけで様々な社会的課題を解決することはできません。新たな時代が願う社会の実現には、協同組合をはじめ、行政やNPO、地域諸団体が、連携・協同を一層進めることが不可欠です。

まさに、私たちの出番です。心と力を寄せ合う「協同の力」で、これまでも様々な「不安」を「安心」に変えてきたように、新たな時代も協同組合運動に夢と希望と誇りを持ち、安心してくらせる兵庫のまちづくりと協同組合の発展のために、一層努力していくことをここに宣言いたします。

2019年7月5日

第97回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会

**兵庫 JCC = 兵庫県協同組合連絡協議会 = とは  
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives**

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）は、兵庫県内の生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の相互交流と連携強化を目的に、1984年7月の第62回国際協同組合デーを機に設立されました。

## 第97回国際協同組合デー・兵庫県記念大会

## 【記念講演】

## 私たちの選択が未来を変える ～エシカル消費のすすめ～

### 講師：末吉里花氏のプロフィール



慶応義塾大学卒業。TBS系「世界ふしぎ発見！」のミステリーハンターとして世界各地を旅した経験を持つ。

現在、一般社団法人エシカル協会代表理事、日本ユネスコ国内委員会広報大使。2005年フェアトレードとの出会いをきっかけにエシカル消費の普及活動に取り組む。

#### ・エシカル消費の普及活動に取り組むきっかけ

「世界ふしぎ発見！」のミステリーハンターとして世界の色々な国を巡るうちに、「この世界は、一握りの利益・権力のために、美しい自然と多くの弱い人たちが犠牲になっている」ということを、頭だけでなく心で理解するようになりました。世界で起こっている数々の問題を多くの人々に伝え、改善する活動をしたと強く思うようになりました。

フェアトレードに取り組むサフィア・ミニーマとの出会いがきっかけとなり、エシカルなファッションを広める活動に取り組みました。今では、フェアトレードだけでなく範囲を広げて「エシカル消費」の普及活動を行っています。

#### ・「エシカル消費」とは

エシカルを直訳すると「倫理的な」ですが、「本来、人間がもつ良心から発生した社会的な規範」がエシカルの意味するものです。「エシカル消費」とは、人・社会・地球環境・地域に配慮した消費のことです。また、モノの作られた背景(＝過去)、大切に長く使えるか(＝現在)、リサイクル可能か(＝未来)などを考えて消費をすることです。

私たち消費者は、モノの購入に責任をもつ必要があります。買い物するかを決める尺度である「安全・安心」「品質」「価格」に追加して、「エシカル」を第4の尺度として持ってほしいと考えています。

すべての人間は消費者です。エシカル消費は最も身近な社会貢献で、だれでも世界を変える力の一端を担うことができます。

#### ・「エシカル消費」が求められる背景

この世界にはモノがあふれています。しかし、ほとんどのモノが、だれがどこでどうやって作っているか分かりません。見るができないということは非常に危険なことです。モノ作りの裏側で、気候変動を始め、児童労働や貧困、生物多様性の減少など様々な問題が起こっています。しかし、私たちが知らないと問題は問題になりません。大切なことは知ろうとすること、知ることです。そして、行動することです。

#### ・「エシカル消費」の取り組み

イギリスでは、販売されている商品がエシカルかどうかを点数化した「エシスコア」が浸透しており、購入の意思決定にこの点数が大きな影響を及ぼしています。

日本でも様々な動きがあり、消費者庁はエシカル消費をトレンドではなく、文化にしたいと考え、地方創生のキーワードと位置付け、各地でエシカル・ラボなどの取り組みを行っています。また、モノづくりをしていない企業でも、接客用のコーヒーや制服をエシカルなモノに切り替えたり、学校でフットサルボールや卒業証書についてエシカルなモノを採用したりするなど徐々にエシカル消費の取り組みが広がっています。

消費は、モノを作っている企業に一票を投じる行為で、大きな力があります。「**い**きょうを**じ**っかりと**か**んが**え**る」**エシカル消費**に取り組み、一緒にエシカルな社会を作っていきましょう！

# 2019年度 「虹の仲間づくりカレッジ」がスタート

兵庫 JCC では、次世代を担う協同組合の職員同士が顔の見える関係をつくり、くらし、地域、社会の中で果たすべき役割についてともに考えることを目的に、2015年度から生活協同組合コープこうべとの共催で「虹の仲間づくりカレッジ」を開いています。今年度は、「生産」「環境」「地域のコミュニティ」が抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」をテーマに全3回の講座を開きます。各協同組合の若手・中堅職員を中心に22人が参加しています。

第1回は、7月11日（木）～12日（金）にコープこうべ協同学苑で開きました。

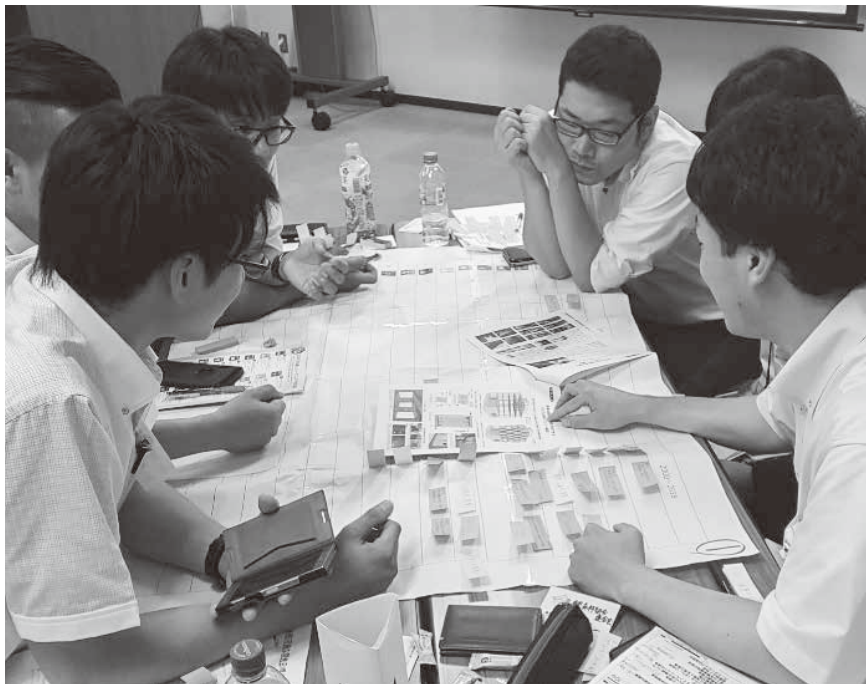
日本協同組合学会の田中夏子会長が、「いのち・暮らし・社会の危機に対し、協同組合は、何を構想し、どう行動するのか～SDGsの発想を活かし、乗り越える～」と題

して、講演しました。SDGsとはどのようなものかについて、事例を交えて色々な観点から説明され、SDGsと協同組合の親和性が高いことについて説明されました。

また、これまでの虹の仲間づくりの取り組みについて、生活協同組合コープこうべの齋藤優子氏から概要を説明した後、過去の実際の参加者が各年度の実践活動を紹介しました。

その後、4班に分かれて、兵庫県内の「生産」「環境」「地域コミュニティ」が抱える課題と課題に対して各協同組合が連携して何ができるかについて話し合い、実践活動の企画づくりを行いました。

第2回は、9月6日（金）に開き、2月までに行う実践活動の具体的な計画づくりを行いました。



講演や事例発表を受けて、企画づくりをすすめました



講演する日本協同組合学会の  
田中夏子会長



過去の参加者から実践活動を紹介

# 今 協同組合では —各協同組合からの報告—

## 生協から

### 「ひょうごまるごと健康チャレンジ 2019」のチャレンジ受付スタート！

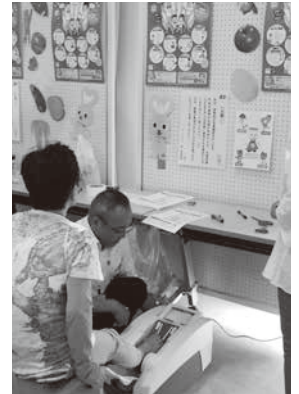
県内の生協や協同組合が一緒になってすすめている「ひょうごまるごと健康チャレンジ」が今年も始まりました。チャレンジ期間は「～12月31日(火)」まで。8つのコースからチャレンジする内容を選んで「宣言」し、期間内に30回取り組んで「結果報告」することで達成です。

「ひょうごまるごと健康チャレンジ」は、禁煙や運動、食習慣の見直し等、健康に過ごしていくための習慣をつくる取り組みです。8月には、県内の様々なイベントにコープこうべと医療生協と一緒に参加し「健康チャレンジ」への参加を呼びかけました。

8月3日(土)の「たからづか食育フェア」や8月19日(月)の「コープSDGsフェスタ～地域の明日のためにアクション～」では、宝塚医療生協がコープこうべのブース内で健康チェックを実施しました。また、8月25日(日)に開催された「第3回ほっぺのわくわくカーニバル」では、神戸医療生協がコープこうべのブース内で健康チェックを実施し、「健康チャレンジ」の案内や受付を行いました。

この他にも様々な形で「ひょうごまるごと健康チャレンジ」を広報し、2万人の参加を目標に取り組みを進めています。

まだ参加されていない方は、ぜひこの機会に「健康習慣づくり」をスタートしてみたいかがでしょうか。ご参加お待ちしております。



8月3日(土)  
「たからづか食育フェア」での健康チェック(宝塚医療生協)



webでの登録はこちらから  
(<http://health-challenge.jp/hyogomarugoto/>)



## JA(農協)から

### 業務用向け契約栽培米(多収穫米)の取り組み

平成30年産米から国による生産数量目標の配分が廃止になりました。また、国産米の消費量が減少する一方で、消費者の安全・安心、環境への関心が高まるなど国産米を取り巻く情勢は大きく変化しています。そのような中、JAグループ兵庫では業務用向け契約栽培米(多収穫米)の取り組みを進めています。

多収穫米は、コシヒカリなどのいわゆるブランド米よりも多くの収量があり、現在では食味が良い品種も誕生しており、外食や加工用に徐々に生産が拡大しています。また、生産者にとっては契約栽培により多収穫米を生産することで、安定した収入を確保でき、安心して生産を行うことができます。



地元農家の指導のもと田植え体験



田植え後の集合写真

JA全農兵庫は、全農パールライス(株)の協力のもと、多収穫米を利用した大手回転すしチェーンとの米の契約栽培に取り組んでいます。今年度は、兵庫県内で多収穫米の栽培に取り組む全生産者を対象に、『多収甲子園』を開催する予定で、反収(10aあたりの収穫量)が最も多い等、優秀な成績を収められた方の表彰式も予定しています。

今後も、多収穫米の生産に取り組む生産者の意欲向上と出荷数量の拡大に向け、マーケットインの考えをさらに強化し、生産者と実需者・消費者とを結びつける取り組みを強化していきます。

# JF(漁協)から

## ～令和元年 豊漁祈願祭・兵庫県漁業協同組合長懇談会を開催～

兵庫県漁業協同組合連合会は7月31日(水)、神戸市内において豊漁祈願祭ならびに兵庫県漁業協同組合長懇談会を開催しました。

「令和元年豊漁祈願祭」は午前11時から海神社で開催され、県内JF組合長、系統団体、行政から約70名が出席しました。神事は厳かに執り行われ、参加者一同は豊かな海の創出と豊漁、操業の安全を祈願しました。

この後、神戸市内のホテルに場所を移して「令和元年兵庫県漁業協同組合長懇談会」が開催され、「『水産政策の改革』への対応について」、「JFグループ次期運動方針(組織協議案)について」の2講演が行われました。

はじめにJF全漁連 大森敏弘専務が講師を務める「『水産政策の改革』への対応について」と題した講演があり、昨年末に成立した改正漁業法等の制度運用等の話に加え、JF全漁連としての対応・見解等について説明がありました。講演後は参加者から様々な質問が寄せられ、当該テーマに対する参加者の関心の高さが伺われました。



講演後には活発な意見交換がありました。

続いて、JF全漁連 信用・組織指導部 杉田 成部長より「JFグループ次期運動方針(組織協議案)について」と題して、全漁連が策定した次期運動方針の詳細について説明がありました。講演後は引き続き、組織協議案についての県域協議に移り、協議案の内容について活発な意見交換がなされた後、閉会となりました。

なお、ここで寄せられた意見や要望を県漁連が取りまとめたうえで全漁連に提出し、今年11月22日開催予定の「JF全国代表者集会」で諮られる予定です。



豊漁祈願祭の神事は厳かに執り行われました。

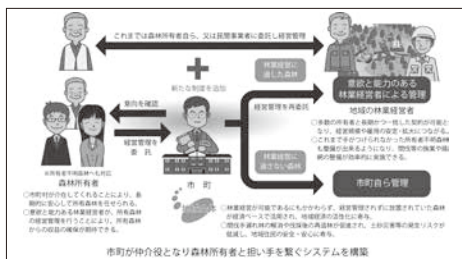
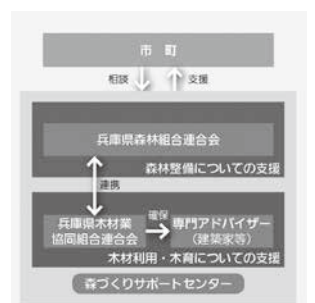
# JForest(森林組合)から

## ひょうご森づくりサポートセンターの設置

平成30年度税制改正の大綱において、森林環境譲与税の創設が決まり、令和元年度から市町への譲与が始まります。

また、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図るため、森林経営管理法が制定され、平成31年4月より新たな森林管理システムが施行されています。このシステムの下、市町では、林業経営に適さない森林で行う森林整備や所有者の意向調査・境界確定、人材育成・担い手の確保などのシステムを円滑に機能させる取り組みに対して、森林環境譲与税を充てることができます。

このような状況のなか、兵庫県では、市町が行う新たな森林管理システムや森林環境譲与税を活用した取り組みを支援するため「ひょうご森づくりサポートセンター」を設置しました。サポートセンターの業務は新たな森林管理システムのもと市町が実施する森林整備や木材利用・木育に関する相談対応を行うほか、要請に応じて業務支援等を行っています。



新たな森林管理システム

サポートセンターは、兵庫県森林組合連合会に事務所を置き、兵庫県木材業協同組合連合会や木造・木質化に詳しい建築家・工務店と連携することで、地域の事情に応じて寄せられる市町の多様な相談に対応する体制を整えています。

今年度より始まった新たな取り組みで森林の適切な管理と林業の活性化が期待されるなか、ひょうご森づくりサポートセンターの役割は今後ますます重要になってきます。

## 協同組合運動 に生きる

# 協同組合の一員として



兵庫県農業協同組合中央会 総務企画部 主任 **丸山 直幸**

兵庫県農業協同組合中央会(JA兵庫中央会)は、JAグループ兵庫の代表として、兵庫県内のJAや連合会からの相談対応や総合調整を行っている組織です。私は2010年に入会し、現在10年目になります。これまで私が経験してきた業務とともに、本会の事業や取り組みの一部を紹介します。

1年目は教育部に配属になり、三木市の協同学苑で、JA職員の資格試験や各種研修の運営を行いました。教育部は、将来のJAの中核を担う職員を養成する選抜型コア人材育成研修を行っており、私は若手職員を対象とする「みどり塾」を担当しました。そこで出会ったJA職員の方々は仕事へのモチベーションが高い人ばかりでした。1年目であったため講師となり何かを教えるということはありませんでしたが、協同組合であるJAにとって大切な「ヒトづくり」に携われたことは大変貴重な経験でした。

2～3年目は総務企画部で、本会職員の採用や職員研修、3年に1度開催している兵庫県JA大会議案の策定などを担当しました。本会職員の働きやすい環境を整えるべく幅広い業務を行いました。

4～8年目は経営指導部で、会計や法令に関する相談対応や説明会の開催などを行いました。JAからの会計処理の相談に応じたり、改正した法律の内容を周知したりしました。誤った内容をJAに伝えてしまうと大きな問題に発展してしまう恐れもあり、責任が大きい仕事でした。また、JA同士が連携して経営課題の解決を目指すJA間連携の業務も担当しました。JA間連携の実現に向けてJAでどのような経営課題があるか、各経営課題の解決に向けてどのような事例があるかなどを調べ、分析しました。答えが明確になっていない分、難しさもありましたが、楽しさもありました。

9年目は協同組織部で、広報や兵庫県JA大会の運営を行いました。また、協同組合同士の相互交流や連携強化の取り組みを行う兵庫JCCの事務局を担当しました。この年に、兵庫JCCとコープこうべが共催する虹の仲間づくりカレッジに参加しました。私の班は、実践活動として協同組合合同インターンシップを行いました。この取り組みは実践的で大変良かったと自負しています。さらに、カレッジを通じて、他の協同組合の方の事業や運動に対する“熱意”を感じることができ、とても良い刺激を受けました。協同組合の仲間が手を取り合うことで、今までは解決できなかった課題も解決できる場合があると思うので、協同組合間協同にはとても大きな可能性があると感じています。

10年目となる現在は、総務企画部に再度配属となり、本会職員の採用や職員研修、JA自己改革の実践状況のとりまとめなどを担当しています。また、前年度に引き続き兵庫JCCの事務局を担当しています。

JA兵庫中央会は、2019年4月1日に改正農業協同組合法にもとづき、連合会へ組織変更しました(名称は従来通り「中央会」)。これにより、法律の定めにより必ず設置しなければならない組織から会員の任意で設置できる組織へと変わりました。そのため、会員であるJA・連合会からはもちろん、組合員、地域住民からもより一層必要とされ、今まで以上に“価値ある”組織・職員にならなくてはなりません。

私自身としても、今までの経験を活かしつつ、積極的に情報収集や自己研さんを行い、協同組合人として“熱意”をもって、JAや地域が抱える課題の解決に向けて頑張っていきたいと思っています。